

# 日韓の「不完全な文」を俯瞰する

## —形式と意味と機能, そして変化—

企画責任者・発表者：生越 直樹（東京大学）

発表者：尹 盛熙（関西学院大学）、金 智賢（宮崎大学）、新井 保裕（文京学院大学）、河崎 啓剛（東京大学）

### 1. 本企画の趣旨・目的<sup>1</sup>

本企画は、日本語と韓国語の「不完全な文」を様々な観点、具体的には構文、談話、ジャンル・メディア、さらに歴史的観点から分析することにより、両言語における情報と言語化の仕組みについて考察し、そこから両言語の根源的な特徴に迫ろうとするものである。

「不完全な文」、つまり、通常必要とする要素が欠けた文はどの言語にも存在し、その出現パターンも場面や文脈で自明な要素が欠けるなど共通する点が多い。しかし、日本語と韓国語を比べると、「不完全な文」の構文上の特徴、出現する状況に違いが見られる。例えば、「きれいな花!」のような「連体修飾語+名詞」の名詞止め文は、日本語では比較的自由に言えるが、韓国語では「おいしそうな匂い!」のように、修飾語と名詞がいわゆる「外の関係」にある場合に限られる。また、「XはY(だ)」というコピュラ構造でも、「わたしはここ、あなたはここ。」のような列挙の表現では日韓ともに名詞止め文が自然に使われるが、「ここはどこ。」のような独立性が強い文（生越, 2020）では、韓国語は名詞止め文を許容しにくくなる。そのほか、日本語では「お母さんはお仕事へ」のように、しばしば述部全体が省略されるのに対し、韓国語では述部の省略が主に機能語やモダリティ部分に偏っている（尹, 2021）。一方で、SNSでは、日本語より韓国語で頻繁に表記の省略が行われている。

以上のようなことは、言語ごとに「自明な要素」が違う可能性や、類似しているように見える日韓両言語が言語化という点で異なる特徴を持っている可能性を強く示唆する。つまり、「不完全な文」の分析は、何を言語化するかしないかという、言語化の仕組みの解明につながるものであり、本企画での議論は日韓両語だけでなく、言語全般における言語化の仕組みを考える上で重要な示唆を与えることができよう。

以上の趣旨のもと、本企画では日韓の「不完全な文」について、5名の発表者が名詞止め文（生越）、定型表現（尹）、コピュラ構造（金）、SNSコミュニケーション（新井）、文法化（河崎）を取り上げ考察する。これらの考察を通して、日韓両語における「不完全な文」使用の実態とその背後にある様々な要因に迫るとともに、会場の参加者と何を言語化するかしないかという言語化の仕組みについて活発な議論を行いたい。

### 2. 日韓両語の「名詞止め文」使用に関わる要因について（生越直樹）

#### 2.1 日韓両語の「名詞止め文」

「不完全な文」の一種に「名詞止め文」（文末が名詞（句）で終わる文）がある。本発表では、いくつかの談話データを基にして、日韓両語の「名詞止め文」の使い方を分析する。分析から、状況によって日韓の「名詞止め文」の使用に差があること、その差が生じるのは相手への質問方法の違いによることを明らかにする。さらに、その背景には両言語における目の前の状況の捉え方の違いが関係していることも指摘したい。

名詞止め文は様々な文構造を持っており、大きく分けて以下の4つの対応があると考えられる。

- A. 名詞（句）(하/는) 名詞（句） 「これ、プレゼント。」 「그건 비밀! (それは 秘密)」
- B. 連体修飾語+名詞 「きれいな花!」 「한심한 놈 (あきれた奴)」
- C. 連用修飾語+名詞 「そろそろ帰国?」 「今どこ?」 「~씨를 위하여 건배 (~さんのために乾杯)」
- D. 名詞（疑問詞/数詞）一語 「地震!」 「모기! (蚊)」 (生越, 2020:3)

名詞止め文に関する日韓両語の違いについては、金恩愛(2003)や金珍娥(2013)が使い方に違いがあることを指摘しており、

<sup>1</sup> 本企画の発表は、JSPS 科研費 21H00522（全員）、20K00549（金智賢）による研究成果の一部である。



情報がなければ目の前の状況を状態として描写する、そうすると動きより事物の存在に重点が置かれ、名詞中心の表現となりやすい。一方、韓国語では「場面」として把握していくのである程度の時間的幅があり、場面で見られる事柄を出来事として描写していく、そうすると動きや出現状況に注目するので、動詞・形容詞中心の表現となりやすい、と述べている。

今回のデータで、場面1は朝突然知り合いに会って話す状況であり、眼前描写に近い状況だと言えよう。一方、予想しなかった場所で突然知り合いに会うという設定の場面3の場合、日韓の違いはあまりなく、どちらも状態を表す表現が多い。日本語では「何でいるの?」「何してんの?」、韓国語では「뭐야(何だ)」「웬일이야(どうしたの)」「왜 여겼어?(どうしてここにいるの)」という表現が多く見られる。どちらも具体的な動きに注目するより相手の状態を把握しようとしている。場面1は急に知り合いに会ったと言っても、会った場所がいつも会う学校や職場で、相手の行動パターンが分かっている状況で、相手の動きに注目することが可能であり、韓国語では動詞表現が使われる。これに対し、場面3では予想外のことで相手の行動の前後関係がわからず、相手の状況を動きとして捉えることが難しい。そういう場合には、韓国語でも動詞ではなく名詞文や存在を表す있다(いる)を使うことになるのであろう。

今回のデータは量的に少ないので、結論を出すには早計であるが、以上の分析から、日韓の名詞止め文の使われ方の違いには、構文的な要因の他に状況と表現方法という談話論的な要因も関わっている可能性を指摘することができる。

### 3. 不完全な文と談話機能—日韓の定型表現について(尹盛熙)

#### 3.1 発表の概要

本発表では、文法研究において様々な「不完全な文」を幅広く観察すること、そしてその不完全さの種類や程度などの様相を他言語の場合と対照することの重要性を、「定型表現」という現象を例として考える。何らかの不完全さをもつ言い回しでは、形式と意味・機能が一致しないことがあり、例えば「発射!」などは、命令のモダリティ形式をもたないが、命令の発話として機能する。実際の言語使用における発話は、一語文のように、典型的な文としての体裁を整えていないことがむしろ多い。特に特定の使用環境で頻繁に用いられるものは「定型表現」として慣習化することがあるが、例えば日本語の「です」「よ」「ね」が組み合わせさせた「ですよね」のような「拘束的機能語のみの発話」(定延, 2014)は、韓国語の場合、日本語ほど例が見られない。日本語と韓国語は文法的仕組みにおいて多くの共通点を持つことが知られているが、使用場面や談話上の機能が類似した場合であっても、形式における慣習化の様相は異なることが伺える。

#### 3.2 問題の背景—不完全な文の観察と対照分析の意義

ある言語形式が頻繁に使用されると、一部のくずれや欠落が生じることもしばしばであり、ひとかたまりとして慣習化したときは一般的な形式に比べて意味的透明性、分析可能性が低く、個々の要素の合計としてではなく、全体がまとまった単位として認識・処理される(Wray, 2002)。「定型表現」と呼ばれるそのような形式は、伝統的な文法観からは周辺のなものとされてきたが、当該の言語内で頻繁に見られる組み合わせが定着するようになるという点から、個別言語の構造的特性が反映されやすいものと考えられる。

本発表の「不完全な文」は、典型的に必要とされる何らかの要素が欠落した形式、と規定するものだが、不完全さの在り方における傾向には普遍的な部分がある一方で、個別的な面もある。例えば日本語でも韓国語でも、情報内容的に価値が高い内容語よりは機能語の方が省かれやすい。しかし日本語の場合「後は我々が!お母さんはお仕事へ!」<sup>2</sup>のように、動詞述語文で内容語の動詞述語全体が省略されることもあるが、韓国語だと省略の対象は動詞(語幹)より、モダリティを含めた機能語に偏る傾向が日本語よりも強く、両言語では普遍的な傾向が共有されながらも、言語化の対象となる情報の優先順位には差があるのである(尹, 2021)。このような言い回しが頻繁に使われると、それぞれの言語内で特定の場面や機能との結びつきが強化されることになる。さらにはそれが、特定の「文体」または「ジャンル」の特徴と認識されれば、その使用経験の蓄積が母語の動的な知識体系としての「文法」の形成につながることや(Iwasaki, 2015)、通時的には文法化のような言語変化においても重要な役割を果たすことが指摘されている(Bybee & Torres Cacoullos, 2009)。このような認識に基づけば、定型表現の分析は個別言語の構造的違いを見出す重要な手掛かりとなるものと考えられる。

#### 3.3 機能語中心の定型表現とその機能

情報内容の価値とは別に、使用頻度の観点からすれば優勢なのは内容語よりも機能語の方であるため(国立国語研究所, 2013)、繰り返し登場する複数の語の連なりに機能語が多く含まれるのは自然の帰結である。

日本語の助動詞「だ/です」と引用助詞「と」はそのような高頻度の機能語で、多くの定型表現に見られる。「だ/です」も「と」も、単独で自立できない拘束形態素で、通常は別の形態素に後接する形で用いられる。しかし接続表現の「だとして

<sup>2</sup> SNS上のミーム「ジブリから学ぶ主婦業」の例。保育園教師が言いそうな「(我々が)預かるから(お母さんはお仕事へ)行ってください」という台詞。

も「だとすれば」などは、別の語や句に後接するだけでなく、文頭に来ることもあり、その際は本来の用法とはそぐわないことになる<sup>3</sup>。引用助詞「と」から始まる接続表現「とすれば」「となると」「とはいっても」などについても、同様のことが言えるだろう。しかしこのような定型表現には話し言葉・書き言葉を問わず広く使われるものが多く、中には単独の発話として独立的に用いられる例もある。例えば「だ」が終助詞と結合した「だ-ね/な」「だ-よ-ね/な」「です-よ-ね」などは、相手の発話に納得・賛同する旨を伝える機能をする。また「と」の場合、「いう」と結合した「という」は極めて使用頻度の高い形式であるが、この列を含む定型表現「という-N」は、何らかの補文と「という」、それに形式名詞（こと/の/ふう/もの/わけ）が続く形であり、「というわけで（てなわけで、～）」のような接続表現は、文頭使用が可能である。加えて「という？」のような独立発話は、対話相手に発話の敷衍や深化などを要求し、さらなる展開を促すものである。このように機能語中心の定型表現は、指示対象（意味）と言えるものを特定しにくく、具体的な情報内容のやりとりを補助し、コミュニケーションを円滑に進める機能を果たす<sup>4</sup>。

一方で韓国語の場合、機能語の組み合わせからなる定型表現が豊富に見られるのは同じだが、日本語とはやや様相が異なる。例えば韓国語の拘束形態素「다」は、「だ」に機能も用法も概ね対応し、使用頻度も高いが、これで始まる定型表現が先行する語なしで用いられる例は、さほど見られない。日本語の「と」に該当する引用標識の「고」もまた、多くの定型表現を構成するが、状況は同じである<sup>5</sup>。一部の接辞「답다（らしい）」や補助動詞「말다（止す）」などについては独立発話としての用例がないわけではないものの、反復形式にした方が受け入れられやすいなど、構文的な制約を受ける上に、使用も話し言葉に限られる。他に、接辞「씩（ずつ）」や依存名詞「뿐（のみ）」の場合、独立発話の定型表現も見られるが（「씩이냐!」「뿐이야?」<sup>6</sup>）、これまたかなり砕けた話し言葉である。ある定型表現が脱規範的な側面をもつものであっても、文脈の支えがあれば比較的容認されやすいのが日本語だとすれば、韓国語の方はより制約が強いようである。

ただし韓国語の場合も、若い世代の間では新しい用例が見られる。以下はブログの文で、下線部の冒頭に立つ「ㄷ」は、「(비가)오겠다（(雨が)降りそうだ）」のように用言の語幹に付いて推測の意を表す活用語尾だが、これに複数の機能語が連なった「ㄷ-냐-고-요」は、「そんなわけない」という否定の気持ちを、問い返しの形式で表すものである。

- (1) 이웃집 아주머니께서 우리집 고양이 보고 부엉이네（隣のおばさんがうちの猫を見て「ミミズクなのか」だって）  
ㄷ-냐-고-요（なわけあるか）

このように相手の発話を受けてさらに談話を積み上げたい場面では、一度述べられた内容は繰り返さず、関わる機能語のみを組み立てた方が、やりとりをテンポよく進めるのにも都合がいいというものだろう。そのような動機は言語普遍的なもののはずであるが、具体的に何が定型表現の構成素として残り、時間の経過とともに慣習化されていくのか、その過程で日本語と韓国語の違いを特徴づける要素はどのようなものか、などの疑問に答えるには、定型表現の多様な側面を共時的に捉えるという作業に加え、通時的なアプローチが求められる。

## 4. 日韓コピュラ構造の相違がもたらす「不完全な文」の様相（金智賢）

### 4.1 問題提起

日本語と韓国語の「不完全な文」における違いが最も顕著な現象の一つに、文が裸の名詞で終わる名詞止め文がある（生越，2020）。名詞止め文は一つまたは二つの名詞からなっており、「XはY(だ)」に代表されるコピュラ構造とも関係がある。日本語と韓国語は異なるコピュラ構造を持っていることが指摘されていることから（金智賢，2021）、日韓名詞止め文の違いは両言語のコピュラ構造の違いと関連付けられている可能性がある。生越(2020)によれば、名詞止め文は以下の四つのタイプに分けられる（生越，2020: (3)，ハングルのローマ字化は筆者による）。

- A. 名詞（句）(ハ/nun) 名詞（句） 「これ、プレゼント。」 「kuken pimil!（それは秘密）」  
 B. 連体修飾語＋名詞 「きれいな花！」 「hansimhan nom.（あきれた奴）」  
 C. 連用修飾語＋名詞 「そろそろ帰国？」 「今どこ？」 「~ssilul wihaye kenpay!（～さんのために乾杯）」  
 D. 名詞（疑問詞/数詞）一語 「地震！」 「moki!（蚊）」

<sup>3</sup> 他の接続表現である「なので」「ですので」も同様で、文頭で用いられる場合は脱規範的な言い回しと見なされることもある。

<sup>4</sup> 日本語では他にも接辞「～っぽい」「～らしい」や補助動詞の「～みたいだ」などの拘束的な機能語が、単独発話として用いられる例がある。

<sup>5</sup> 例えば「だ-と-すれば」に対応する構造の定型表現は「그렇게-다-고 하-면」で、下線部は形容詞「그렇게-다」（そうだ）の語幹である。

<sup>6</sup> 「씩이냐!」は相手の行為に対して驚きまたは羨みの感情を表す言い回しであり、「뿐이야?」は相手の発言に上乗せする前座的な表現で、上乗せの内容を述べる後続発話が続いた方が自然となる。

本節では、両言語のコピュラ構造がこれらの名詞止め文にどう表れているかについて、タイプごとに明らかにしていく。

## 4.2 コピュラ構造における日本語と韓国語の違い

各名詞止め文を見ていく前に、本節の理論的ベースとなる日韓両言語のコピュラ構造について概観する。二つの名詞が結びついている文構造のことをコピュラ構造、またその構造を有している文をコピュラ文と呼ぶなら、コピュラ構造はことばのレベルに並行して二つのレベルを有すると考えられる(金智賢, 2021)。

表1. コピュラ構造のレベル

| レベル      | 文構造                   | 意味構造(XとYの結合)      | 傾向性     |
|----------|-----------------------|-------------------|---------|
| 文法(S)レベル | XがYである[こと]/X-ka Y-ita | 主述関係にある要素のみ結合可能   | 韓国語>日本語 |
| 発話(P)レベル | XはY(だ)/X-nun Y-(ita)  | どんな要素でも結びつけることが可能 | 日本語>韓国語 |

Sレベルとは、伝統的な統語・意味論の対象となっている、文内の名詞が述語に対してどのような役割を持っているかが問題になるレベルで、コピュラ構造においては、主格助詞を用いて「XがYである(こと)」「X-ka Y-ita」のように言い換え可能な文がSレベルのコピュラ文となる。この場合、Sレベルのコピュラ構造であることを表す「だ」「ita」がポイントとなる。他方、Pレベルとは談話・語用論レベルのことで、このレベルにおけるコピュラ文の二要素は、主述関係でないものも含まれる。この場合、「だ」「ita」の現れ方は一様ではないが、日本語の「だ」の方がより制限なく用いられる。<sup>7</sup>それぞれのレベルにおけるコピュラ文の用例を示すと以下の通りである。

- (1) a. 太郎は天才だ。 / 幹事は花子だ。 / あの人φ誰? [Sレベルのコピュラ文-日本語]  
 b. chelswu-ka chencay-ta. / kansa-nun yenghuy-ta. / ce salam-φ nwukwu-ya? [Sレベルのコピュラ文-韓国語]  
 (2) a. 僕は冷麺だ。 / 明日も雨φ。 / 窓口は休みφ。 [Pレベルのコピュラ文-日本語]  
 b. na-nun nayngmyen-φ. / nayil-to pi-φ. / ?changkwu-nun hyuil-φ. [Pレベルのコピュラ文-韓国語]

どちらのレベルのコピュラ文も、実際の談話では助詞を欠いたり、「は」「nun」など非格形式が用いられ、さらには、Xが現れなかったりなど多様に実現する。ここで大事なのは、意味構造と実際言語化される形にズレが生じる場合があること、韓国語は意味構造をそのまま文構造として言語化する傾向が強く、日本語は意味構造と関係なくPレベルのコピュラ文を好む傾向が強いということである。コピュラ文における日韓のズレは、この傾向性に起因するものと考えられる。

## 4.3 名詞止め文とコピュラ構造

Aタイプの名詞止め文は「X(は/nun)Y」の形をしているもので、XとYの関係は様々である。生越(2020)は、Aタイプの詳しい分析は行っていないが、韓国語では(3)のような名詞止め文が言えない一方で、上記の「kuken pimil! (それは秘密)」や(4)のような例は言えるとしている(生越, 2020: (12)-(13), ハングルのローマ字化及び日本語訳は筆者による)。

- (3) a. yeki {?eti/eti-ya}? (ここ, どこ?)      b. twu salam-un mwusun {?sai/sai-ya}? (二人はどういう関係?)  
 (4) a. na-n yeki, ne-n yeki. (私はここ, あなたはここ)      b. ocen yensup-un kkuth! (午前の練習は終わり)

(3)の「X-(nun) Y」文は、「XがYである[こと]」を表しているSレベルのコピュラ構造である。この場合、韓国語は「ita」が必須であるため、名詞止め文は不自然となる。<sup>8</sup>一方、(4)の「X-nun Y」文は、「XがYである[こと]」という主述関係を表しているものではなく、当該の談話状況において焦点となっているXとYを単に結び付けているPレベルのコピュラ文である。このような場合、韓国語でも「X-(nun)Y」の形、すなわち名詞止め文が使えるのである。

Bタイプの名詞止め文は「連体修飾語+名詞」の構造をしているもので、生越(2020: (5))は、このタイプの名詞止め文がたくさん用いられる日本語に対して、韓国語は「hansimhan nom. (あきれた奴)」「kenpangcin saykki! (生意気な奴め)」など定型化された表現しか用いられないことを指摘している。この種の名詞止め文が「きれいな花!」(発見時)のような文と異なっていることは、生越(2002)や金智賢(2021)などの分析で明らかになっている。特に金智賢(2021)は、韓国語の「きれいな花!」タイプの文は生越(2002)の言う「驚き」の場面にて「ita」を伴う形、即ちSレベルにおけるコピュラ文の形でのみ用いられ、発話前に認識されている「花」の性質を述べる表現であるとしている。それに対し、「hansimhan nom. (あきれた

<sup>7</sup> この「だ」は、Sレベルの「だ」とは異なるという議論が金(2021)で展開されている。

<sup>8</sup> 厳密に言えば(4b)は「XはRがYだ」の意味構造を有するが、それでも「RがYである[こと]」がPレベルのコピュラ文のため、本文の趣旨は変わらない。



|     |            |              |       |     |
|-----|------------|--------------|-------|-----|
| J05 | 女性2名       | 4年生          | 同学年友人 | 31分 |
| K01 | 男性2名       | 1年生          | 同学年友人 | 32分 |
| K02 | 女性1名, 男性1名 | 4年生, 3年生     | 先輩後輩  | 30分 |
| K03 | 女性2名       | 2年生          | 同学年友人 | 30分 |
| K04 | 女性3名       | 3年生1名, 1年生2名 | 先輩後輩  | 44分 |
| K05 | 男性3名       | 3年生          | 同学年友人 | 42分 |

## 5.2 調査結果①：情報と言語化、文字数や表記

まず全体的な結果として、文字数や表記に注目して情報と言語化を考える。各コミュニケーションアプリ会話の1吹き出しを1メッセージとして数え、メッセージごとに表計算ソフトの文字数カウント機能を用いて計量化した。なお会話には写真、スタンプなどの非文字メッセージや、WebURL・検索結果の引用もあるが、それらはほかのメッセージとは入力の手間、つまり情報の言語化の過程が異なるものであるため、メッセージ数には含むものの、1メッセージあたりの平均文字数産出からは除外した。絵文字は1つを1文字としてカウントし、手作業で数値を修正した。韓国語の場合は、標準的な表記では分かち書きが成されるが、SNSなどでは分かち書きの無視が起こることも多い。表計算ソフトの文字数カウント機能では分かち書きのスペースも文字としてカウントされるが、分かち書きが無視されるSNSでも分かち書きが行われていることに注目して、スペースもカウントに入れて文字数を集計している。こうした計量化の結果は以下表2の通りである。

性別や参加者数が統一されていないものの、日韓のデータを比較すると、日本に比べると韓国は3倍以上のメッセージのやり取りが行われていることがわかる<sup>10</sup>。一方で平均文字数については韓国の方が日本より小さく、韓国は日本に比べてSNS上で情報を「短く多く」言語化していると言える。国だけでなく性別に注目すると、韓国では性別に大きな違いが見られないのに対して、日本は男性2名のグループの平均文字数が小さいことがわかる。しかしこの文字数の違いから、日本では女性より男性の方が「不完全な文」を用いると結びつけることはできない。新井(2023)でも指摘したように、日本の男性が作成送信したLINEでは「卒論／とかね／手書き／になってくれた／俺一生笑うわ」(「／」はメッセージの境界を表す)のように、一文を任意の言語単位に分けて表記する例が見られた。「完全な文」を複数のメッセージに分けて表記する「表記意識」の存在が示唆され、日本ではその「表記意識」に性差があると言える。対照的に、韓国語の場合はそうした性差が見られず、男性でも女性でも「完全な文」を複数のメッセージに分けて表記する例が見られた(例:「술직히／잡자기／주제가／이거밖에 안떠오름」)。

表2 グループ別メッセージ数・平均文字数

|            | 参加者         | メッセージ数     | 平均文字数       |     | 参加者    | メッセージ数 | 平均文字数 |
|------------|-------------|------------|-------------|-----|--------|--------|-------|
| J01        | 女性2名        | 156        | 13.41       | K01 | 男性2名   | 263    | 9.35  |
| J02        | 女性3名        | 274        | 9.19        | K02 | 男女1名ずつ | 404    | 7.24  |
| J03        | 女性2名        | 86         | 11.83       | K03 | 女性2名   | 445    | 6.64  |
| <b>J04</b> | <b>男性2名</b> | <b>241</b> | <b>5.80</b> | K04 | 女性3名   | 780    | 7.54  |
| J05        | 女性2名        | 73         | 13.56       | K05 | 男性3名   | 946    | 5.10  |
| 平均         |             | 166        | 10.76       | 平均  |        | 567.6  | 7.17  |

## 5.3 調査結果②：情報と言語化、記号類や表現

次に、SNSに特徴的に見られる個別の記号類や表現に注目して結果をまとめる。①スタンプや絵文字、写真、記号などの非文字、②形態上は文字であるが、文末に置いて感情を表す「0」や「笑」のような括弧、表語文字、を記号類としてまとめ、記号類が使用されたメッセージ数の割合をグループごとにまとめると日本では表3のような結果になる。本調査における限定的なデータであり、かつ多少の前後はあるものの、女性の場合、1グループあたりの平均文字数が少ないグループほど記号類を使用したメッセージ数が多い傾向にあることがわかる。前述の男性グループと異なり、日本の女性グループでは、「完全な文」にせよ、「不完全な文」にせよ1メッセージで文が送受信されることが多いが、情報を言語ではなく記号によって表す場合は、言語で表出される部分が少なく、1メッセージあたりの文字数が少ないと言える。「不完全な文」を使用し、言語化しない情報を補償するために記号類使用を行うという、記号類使用と情報の効率的な言語化の関係が示唆される。なお韓国ではこうした相関関係は見られず、日韓の異なる部分であると言える。

<sup>10</sup> 本調査におけるメッセージの送受信時間は日本が合計148分、韓国語が合計172分と韓国の方が1.2倍長い。その時間の差以上にメッセージ数に大きな差が生じている。

日本語に比べると韓国語では名詞止めが少ないと言われるが(生越ほか, 2018; 生越, 2020), 本SNS調査のデータでは日本語よりも韓国語で名詞止めが多く現れた(日本語: 58例, 韓国語 236例<sup>11</sup>). 前のメッセージでスタンプを用い「어제저녁을너무많이먹은○○(昨日夕飯を食べ過ぎた○○)」のようにスタンプを描写する際に名詞止めを用いる例が散見された. 記号類を使用したうえに情報を言語化する点が, さきの日本語と対照的で興味深い. また韓国語データはグループごとにメッセージ数に大きな差があるため, 名詞止めを含むメッセージの割合をグループごとに算出し, 平均文字数と比較した結果は表4の通りである. 名詞止めは情報の効率化と関わるのではないかと考えられたが, 平均文字数との相関関係は見られず, 情報の言語化との関係は示唆されなかった.

表3 日本の記号類使用メッセージ数

|     | 参加者  | 記号類使用数 | 平均文字数 |
|-----|------|--------|-------|
| J02 | 女性3名 | 231    | 9.19  |
| J01 | 女性2名 | 78     | 13.41 |
| J03 | 女性2名 | 72     | 11.83 |
| J05 | 女性2名 | 60     | 13.56 |
| J04 | 男性2名 | 27     | 5.80  |

表4 韓国の名詞止め使用メッセージ率

|     | 参加者    | 名詞止め使用率 | 平均文字数 |
|-----|--------|---------|-------|
| K01 | 男性2名   | 0.084   | 9.35  |
| K04 | 女性3名   | 0.096   | 7.54  |
| K02 | 男女1名ずつ | 0.101   | 7.24  |
| K03 | 女性2名   | 0.076   | 6.64  |
| K05 | 男性3名   | 0.068   | 5.10  |

## 5.4 小結

本節ではSNSの「不完全な文」を情報と言語化の観点から考察した. 調査データの収集や分析に課題が残るものの, 日韓SNSにおける情報と言語化, 及び文字・表記との関係を示唆した. 今後, 「不完全な文」を益々俯瞰していくために, メディアや文字・表記も対象に入れた探究が望まれる.

## 6 「不完全な文」からの文法化(河崎啓剛)

### 6.1 日韓の多様な省略文

日韓両言語について少し考えてみるだけでも, 特に口語を中心として, 言葉は「省略」に溢れている. 中には①「省略」がある事は誰の目にも明らかでありながら, それでもあまり「何かを省略した」という印象を与えない表現もある一方で, ②高度に語彙化して, もはや元来「省略」であった事が忘れられてしまうような場合もある. この区別はもちろん明確な境界線をひけるようなものではなく, 連続的, 段階的なものであろう. 例えば日韓の以下の様な表現の例は, 前者の①に属する様なものと考えられる. 非常に多くの例を挙げる事ができ, また日韓で似たような例も多い.

早くして(くれ). /早くやらなきゃ(ならない・いけない・だめだ). /相談して見ないと(わからない・いけない). /早くやれば(どうだ)? /早くやったら(どうだ)? /そういえば持ってたかも(しれない). /そろそろ時間では(ありませんか)? /合格してくれたら(良いな)と思う. /遅刻しちゃって(今こうなってるわけ)さ. /こんなの持っ<sup>て</sup>いても(しょうがないよ)ねえ. /もう帰ると(いうの)は(驚きだ). /もう帰るなんて(いうのは)(驚きだ). /俺じゃない<sup>んだ</sup>けど(なぜ疑われてるんですか). /俺じゃないし(他にも言いたい事あるし). / …

|   |                        |
|---|------------------------|
| nay-ka ani-ntey. 「私じゃないのに。」             | ← 私じゃないのに(なんで疑うの).     |
| kukey mwe-(i)-ntey? 「それ何なの?」            | ← それが何だからと(話題にするの)?    |
| nay-ka ka-nta-(ha)-nikka! 「私が行くってば!」    | ← 私が行くと言うのだから(早く理解して)! |
| pelsse ka-key? 「もう行くつもり?」               | ← もう行くように(考えているの)?     |
| ceytayro ha-l kel. 「ちゃんとやればよかった。」       | ← ちゃんとやるものを(やらなかった).   |
| chencay-nun musun? 「天才だなんて。」            | ← 天才とは何の(天才だ)?         |
| mesiss-ki-n. 「格好よくなんかないよ。」              | ← 格好いい事とは(何が格好いい)?     |
| na way ire-n ke-(i)-nci. 「私, なんでこうなのか…」 | ← 私, なんでこうなのか(わからない).  |
| ney-ka o-tani! 「君が来るだなんて!」              | ← 君が来るとは(驚きだ)!         |
| ney-ka o-ass-umyen ha-nta. 「君に来てもらいたい。」 | ← 君が来たら(良いな)と思う.       |

<sup>11</sup> 全体のメッセージ数を考慮した名詞止めを含むメッセージ率や, やり取りの時間を考慮した分当たりの名詞止めメッセージ率を見ても同様である.

以上の例は、ほとんど省略を意識させない程に定着した表現であるとはいえ、省略文だと言われれば誰もが元の文を復元できる程度の水準であると思われる。

## 6.2 韓国語の「省略文」の高度な文法化

一方、現代韓国語の特に口語的文法においては、前述の②のように「省略であった事がわからない」程に高度に文法化したものがいくつも指摘できる。中でも「連結語尾の終結語尾化」現象が代表的である (cf. 李賢熙 1982:74ff.). 例えば、現代語の口語で極めて高頻度で使用される「-e」「-ci」「-ketun」という3つの「終結語尾」の例があるが、これらの「終結語尾」は歴史的には比較的新しいもので、語源としてはそれぞれ15世紀から存在する「連結語尾」の「-e」「-tivi > -ci」「-ketun」に由来するものとされる。ある終結語尾が連結語尾に由来するという事は、即ち「主節が省略された、従属節だけの不完全な文 (省略文)」が、高頻度で使用されたためそのまま固定化され、いつしか不完全な文 (省略文) であったことが忘れられてしまった、という通時的プロセスがあったことを意味する。ただ、その変化の具体的なメカニズム、即ち「具体的には何が省略された省略文なのか」という点については、管見の限りそれほど十分な検討はなされていないようである。

例えば「-ci」は「でしょ?」「ね?」「かね?」「~たら (どうかね)?」のように互いに既知の情報を相手に「確認」したり、相手と「共感」したり、相手に「提案」したりする終結語尾であるが、これは、「A-i-ci, B-ka ani-ta」「A なのであって, B ではない.」という構文を形成する連結語尾「-ci」に由来するとされる。つまり、具体的には以下の表のような省略文に由来するものと解釈する事ができる。

| 終結語尾「-ci」の用法  | 連結語尾「-ci」としての元来の省略文  |
|---|--|
| manh-i chup-ci?<br>「とても寒い <u>でしょ?</u> / 寒い <u>よね?</u> 」 | ← とても寒いのであって, (暑いわけではない, 大した事 <u>ないわけでもない, そうだね?</u> )           |
| icey kuman ha-ci.<br>「もうそれくらいに <u>したら?</u> 」            | ← もうそれくらいにする <u>ものであって</u> , (それ以上やる <u>ものではない, そうだね?</u> )      |
| mamuli-nun nay-ka ha-ci.<br>「仕上げは僕がやろうか <u>ね.</u> 」     | ← 仕上げは僕がやる <u>のであって</u> , (他に良い方法も <u>無さそう</u> だ, <u>そうだね?</u> ) |
| ecce-l swu eps-ci, mwe...<br>「仕方がない <u>よね, ...</u> 」    | ← 仕方がない <u>のであって</u> , 何 (か) 他に方法も <u>無さそう</u> だし ...            |

つまり、まずは相手と共有したい「事実」を示し、「その事実とは相反するケースの事はほのめかすだけで言わない」ことになる。するとその「相反するケース」の事も懇切丁寧に確認するような「姿勢だけは示す」事になり、その結果相手と共感帯を形成するようなニュアンスを表すようになるのだと考えられる。また「もう少し言葉を続ける構え」があるからこそ、断定を避けたやや慎重なニュアンスにもなり得るのであろう。

「-ketun」は、「実は~なんだ」「実は~でね」のように「自分の知っている大事な事情を教えてあげる」ようなニュアンスで「話題の提示」(「自慢」「告白」)、「事情・理由の提示」等をする終結語尾である (cf. 김경연 2005, ex. sasil na kyelhon ha-ketun. 「実は私, 結婚するんだ.」, eccey cal mos ca-(a)ss-ketun. 「昨日よく眠れなかったんだよね.」). 一方連結語尾「-ketun」には、「彼が来たら (来るからそしたら), 訊いてみよう.」「雪が降ったから, 行かないで.」のように命令・勧誘等の「相手への働きかけ」をする前提や理由を述べるという典型的な用法の他にも、「A なのだから, (ましてや~をや? / ~なはずがあろうか?)」のように重要な事実を示し、その事実から尺度的に推論される結論を「相手にも推論させて訴えかける」用法がある。こうした連結語尾の用法から、相手にとって未知の重要な事実を教えつつ、「実は~なんだ. (だから...)」と相手に働きかける (関心をひく) 構えを見せたり、「実は~なんだ. (だからそれが何を意味するかは, わかるでしょう? 想像して見てよ.)」といった具合に相手に「その事実が意味する事」の推論を促して訴えかける終結語尾の用法として定着し、それが「事情・理由の提示」や「自慢」「告白」のようなニュアンスまで表すようになったものと考えられる。

「-e」は、所謂「hay 体」や「hayyo 体」等の「非格式体」を形成する、口語において最も基礎的な終結語尾であり、平叙文の場合、日本語で言えば動詞語尾「-u/ru」や形容詞語尾「-i」等に相当する。そして同じ形で「平叙」だけでなく「疑問」「命令」「勧誘」を表現できる点も特記に値する。あまりに基礎的な文法であるため意識されにくいだが、これは近代語以降に出現した新しい終結語尾である事から、その起源は連結語尾「-e」(日本語の連用形や「て」形に相当) 以外には考えにくい。しかし、その変化の具体的なメカニズムについては 김태엽 (1998), 고희모 (2001) 等の興味深い議論があるものの未だ不明な点が多いため、これについての議論は今後の課題としたい。

いずれにせよ、以上「-e」「-ci」「-ketun」で見たような文法化は「不完全な文 (省略文)」が言語のあり方として非常に重要な地位を占めている事を物語っていると言える。また、日本語にはこのような例があまり見当たらず、どうやらこのあ

なりに日本語とはやや異なる韓国語独特の傾向性がある事が指摘できそうである。

### 6.3 中世韓国語研究と「省略文」

一方、中世韓国語の研究においては、従来はこういった「不完全な文(省略文)に由来する文法」という非常に口語的な、ダイナミックな視点は管見の限り不十分であったと考えられる。例えば以下の表のような文法形式は、従来はただこのように共時的に理解されるに止まり、その語形の由来や内部構造についてそれ以上の議論がなされる事は無かった。

| 中世韓国語の形式                    | 従来の理解   | 再解釈                               |
|-----------------------------|---|-----------------------------------|
| -eyla                       | 「感嘆法」終結語尾。現代語「-ela」の遡及形。                            | 「 <u>〜てねえ</u> 」                   |
| -konye/-kona                | 「感嘆法」終結語尾。現代語「-kuna」の遡及形。                           | 「 <u>〜のだからなあ</u> 」                |
| hamalmye<br>〜-stanye/-stana | 尺度比況構文「況や〜をや」。<br>現代語「hamulmye ~ -ey isseserya」に相当。 | 「 <u>況や〜に限っては<br/>(言うまでもない)</u> 」 |
| -kwatayye/-kwatyey<br>ha-   | 「願望」の内的話法「〜て欲しいと思う」。<br>現代語「-essumyen ha-」に相当。      | 「 <u>〜たらなあと思う</u> 」               |

しかし、どうやらこれらはそれぞれ表の「再解釈」に示すように一種の「省略文」に由来するとみなす事が可能であり、それによってより精密な意味・用法の理解が可能になるものと考えられる(「-eyla」については河崎2024を参照)。高頻度で使用される「省略文」が固定化され新たな文法を形成していくという言語のダイナミズムは、当然の事だが、何も現代語だけに与えられた特権ではないわけである。

### 参考文献

- 新井保裕 (2023). 日本語LINEにおける「不完全な文」の一考察 —メディアと言語構造、「表記意識」に注目して— 韓国日本語学会第48回国際学術大会発表論文集, 36-45.
- Bybee, Joan & Torres Cacoulios, Rena (2009). The role of prefabs in grammaticization: How the particular and the general interact in language change. In Roberta Corrigan, Edith A. Moravcsik, Hamid Ouali and Kathleen M. Wheatley (Eds.), *Formulaic Language: distribution and historical change*. pp. 187-217. PA: John Benjamins.
- Iwasaki, Shoichi (2015). A multiple-grammar model of speakers' linguistic knowledge. *Cognitive Linguistics*, 26(2), 161-210.
- 河崎啓剛 (2024). 中期朝鮮語の所謂「感嘆」の「-에라」について 韓国朝鮮文化研究, 23, (印刷中).
- 金智賢 (2021). コピュラとコピュラ文の日韓対照研究 ひつじ書房.
- 김경연 (2005). 종결어미 ‘-거든’ 에 대한 연구 어문논총, 16, 1-20.
- 김태엽 (1998). 국어 비종결어미의 종결어미화에 대하여 언어학, 22, 171-189.
- 国立国語研究所 (2013). 現代日本語書き言葉均衡コーパス 長単位語彙表 ver1.0.
- 고광모 (2001). 반말체의 등급과 반말체 어미의 발달에 대하여 언어학, 30, 3-27.
- 李賢熙 (1982). 國語의 疑問法에 대한 通時的研究 서울대학교대학원 석사학위논문.
- 生越直樹 (2002). 日本語・朝鮮語における連体修飾表現の使われ方—「きれいな花!」タイプの文を中心に— シリーズ言語学4 対照言語学, 75-98. 東京大学出版会.
- 生越直樹 (2020). 名詞止め文をめぐる —韓国語と日本語の対照— 朝鮮学報, 255, (1)-(22).
- 生越直樹・尹盛熙・金智賢・新井保裕 (2018) 省略現象から見えてくること —「磁石」な日本語と「チェーン」な韓国語— 社会言語科学会第42回大会発表論文集, 236-245.
- 尾上圭介 (1998). 一語文の用法—“イマ・ココ”を離れない文の検討のために— 東京大学国語研究室創設百周年記念 国語研究論集, 888-908. 汲古書院. (尾上(2001)に所収)
- 尾上圭介 (2001). 文法と意味 I くろしお出版.
- 定延利之 (2014). 話し言葉が好む複雑な構造 きもち欠乏症を中心に 石黒圭・橋本行洋 (編) 話し言葉と書き言葉の接点, 13-36. ひつじ書房.
- Wray, Alison (2002). *Formulaic language and the lexicon*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 尹盛熙 (2021). ことばの「省略」とは何か 大修館書店.